

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年2月14日（金） 15：20～16：30

2 場 所 盛岡第三高等学校 大会議室

3 出席者 7名/13 名

（自治会代表、PTA 代表、行政関係、近隣小中学校長、地元企業、同窓会代表、本校校長）

土 川 敦 三 浦 隆 觸 澤 吉 輝 影 山 佳 奈 桜 ひろこ
森 理 彦 木 村 基（校長）

（委任状提出者 高 畑 嗣 人 海 野 尚 大 下 伸 一 高 木 浩 一
阿 部 俊 之 藤 村 誠

4 内容

（1）議題

ア 学校概況報告

イ 教育活動に関するアンケート結果について

ウ 次年度に向けて

（2）上記について、それぞれ意見交換

5 議事録

（1）議題に係る説明（学校概況報告並びにアンケート結果報告）は、割愛する。

（2）意見交換

（意見交換の内容は、アンケート結果に関するものが大半であった。また、掲載している内容は、出された意見について、時系列に並べたものである）

【委員】このようなアンケートを見るときは、親的に見てしまう。子どもが安心して学校生活を送れているのか、また友達との関係がいいのか、あるいは、先生と上手く接してくれているか、そういう項目が気になる。今回、いずれも、すごく高い評価で、安心した。自己評価によるものとはいえ、さすが三高だなと思って拝見した。特に3年生が「安心して学校生活を送ることができている」を高く評価している点がすごく良いと感じた。

【委員】今日参加している生徒の皆さんに、2つほど聞きたい。まず、一つめ、生徒アンケートの質問「社会や人間のあり方について考えるようになった」という評価が高いことが素晴らしい。例えば、3年生の肯定的な回答が90%を超えて、これが1年生のときからの経年変化で見てもどんどん伸びている。今日参加しているのは、1年生や2年生の生徒会の皆さんではあるけれど、2年生も1年生のときに比べると、さらに肯定的な割合がぐっと伸びていて、素晴らしいと思う。この「社会や人間のあり方について考えるようになった」と肯定的に回答してるのが、「高校生になって、自分のいろいろな興味関心とかの広がりで、高くなってるのか」、それとも「三高に入ってから三高の探究を含めた授業やいろいろな活動に取り組む中で考えるようになったのか」、どうしてこの辺が高まってきているのか、率直な感想を聞きたい。

《生徒1》質問項目に関して私の場合、盛岡に住んでいませんので、高校生になって環境が変化しま

した。離れた場所から通っており、人が多かったりとか、中学校のときと違い先生方との距離感とか、地域の人との関わりとかが変わったと感じてる。もう一つは、1年生で7月頃に沿岸の方に研修に行った際に、内陸の人と沿岸の人でどういう違いがあるかを考えたりしたことがある。そういう行事を通して、自分の住んでる地域ではないところなどに関心を向ける機会を学校で設けてくれているから高くなったと思う。

《生徒2》2年生なので、2年生の意見となるのですが、私は昨年度は「社会や人間のあり方」についての項目では、正直「思わない」方だった。今回は、考えが変わった。変わった要因としては、先生方のいろいろな話を聞いてきたことで、自覚を持てるようになった。これまでは、ただの消費者でしかなかった自分が、いずれお金をもらって働く生産者側になっていくという自覚が強くなり、受験だけではなく受験のその先を考えることができるようになり、結果的に「社会や人間のあり方」について考えることに繋がったと感じてる。

《生徒3》初めの生徒の内容に被ってしまうけど、私自身も、沿岸から引っ越して、親元から離れて、三高に入った。部活動とか勉強とかに対して割く時間が中学よりも多くなった。なおかつ、親と一緒に住んでいないのでやらなければならないことが多くなった。時間管理や何をどういう順番でやるべきか、そういうことが「人間のあり方」の評価を大きくしていると感じた。

【委員】もう一つ生徒の皆さんに直接お聞きしたかったのは、例えば生徒の「授業に要望したいこと」では、どの学年も一番は「わかりやすさ」となっている。一方、令和4年度では、「受験対策」が多かった。令和5年度と今年度は、「わかりやすさ」を求めている。これに対して、先生方は、「授業をする上で留意していること」で、「わかりやすさ」にも留意しているようだ。令和4年度以降、ずっと「考えさせること」となっている。これも三高らしさだと感じた。それで生徒の皆さんに質問です。先生方が意図している、「考えさせること」よりも、「わかりやすさ」に要望が多くなっているのは、そこが一番三高の授業で「改善してほしい」というふうに捉えているのか、もしくは「考えさせること」などはむしろたくさんさせてもらってるから、今後要望したいこととしてはそれに加えてやっぱり「わかりやすさ」と考えているのか。「考えさせること」と「わかりやすさ」について、授業の中でどんなふうに感じているのか率直に聞きたい。

《生徒1》私の場合、沿岸から来ましたので、沿岸地域だと塾などの学習環境が整っておらず、どうしても知識の面で劣ってしまうところが内陸に比べてあると感じている。そのときに授業の中で、質問とか問いところで、思考力は鍛えられていくような要素をたくさん感じる。けれども、その思考する以前のところで、知識の部分で、何でこうなるかという、思考に繋がる前の知識の段階が足りないと感じる。その前提が不足しているなかで、解説されても理解ができないときがある。なので、知識という面では、「わかりやすさ」がほしくなる。知識を身につけてから「考えること」に繋がりたいなと思っているので自分自身も「わかりやすさ」がまず一番と感じている。

《生徒2》私の意見は逆になる。知識よりも考え方を育てるためにグループワークとかをもっと増やして欲しいと思っている。知識があってもそれをどういうふうに組み立てて活用していくかを考えたときに、受験をゴールに置いたならば、知識の方が大事かもしれない。けれども、三高の場合、もっとに先をゴールに置くことが多いと考えている。なので、知識はもちろん大事けれども、グループワークとかで思考力を鍛えて、それを使う力を鍛えるために考えさせてくれる場を学校が先生方が増やしてくれているのはすごくありがたと思っている。

《生徒3》「考えさせること」については、授業の中で結構感じている。5教科であっても、それ以外の教科でも、全部のペアとか何人かのグループで話すというのはどの授業でもたくさん行われて

いる。それは先生が一番力を入れていることだと思う。けれども、その一方で「わかりやすさ」については、授業でわからない所があったときに、どこか聞きたいなと思っても、職員室まで行って聞いたりするのが少し大変というか、あんまり聞きやすい状況ではないかと感じる。だから、「考えさせること」だけではなく、「わかりやすさ」もと思う。わからなかったときにもっと聞きやすい環境があればいいと思う。

【委員】ありがとうございました。数字の内容について、生徒さんの率直な意見を聞かせいただきよくわかりました。

【委員】1年生の自由記述で、私立大学への進学に関する進路指導について知らせてほしいということが書かれていますが、その辺りを含めた進路指導の現状についてお聞きしたい。

(進路課長) 三高の生徒は国公立大学を志望する生徒が多いので、どうしても共通テストに向けた指導が中心になっている。仕方がないことと思っている。私立大学に関しても、指定校推薦などがあるので、必要に応じて情報提供を行っている。今年度分の指定校については12月に保護者に向けて、生徒へ公開しますということで連絡をして、今年度の指定校について公開した。また、私立大学の受験科目数が減ったりするが、本校では私立文系の生徒でも、数学とか理科の授業も考查もあるので授業を受けなければならない。なので、生徒にとっては、私立大学についても知識がほしいと思う生徒が出てくると思っている。

【委員】1年ぐらい前に知り合いから、三高の推薦入学者の数が他の進学校と比べてちょっと少ないという話を聞いたことがある。実際のところ推薦入試についてはどうなのか。

(進路課長) 2年前は、推薦入試の合格者数が16名で、昨年は19名ということで、決して多いわけではない。ただ、ここ数年で、推薦入試の形態が変わり、今年は増えて今のところ33名が決まっている。最近は、学校推薦の他に総合型選抜というのがあり、総合型選抜だと学校長の推薦がなくとも出願できるもので、そういった新たな選抜方法も情報として出しながら、各担任の先生方が面談を通して指導していただいている。

【委員】友人関係が良くなった、学校生活が充実しているという肯定的な回答が多くて素晴らしいことだと思う。反面、そうじゃない生徒についても気にかけていただきたい。高校生にとって友達との関係や先生方との関係は、学校生活の全てというところがある。悩んでいる子たちもいると思うので気にかけてもらえればと思う。

【司会】学校生活において悩みを持っている生徒に対してどのようなアプローチを行っているのか。

(保健相談課長) スクールカウンセラーは年8回、訪問してカウンセリングを行ってもらっています。学校生活に悩みを持っている生徒への対応は、基本的に担任面談、あるいは相談関係の先生方への申し出が中心です。場合によっては、担任だけではなく、関係する先生方を含めてチーム会議を実施している。それらの内容については、学年会で共有し、さらに関係する先生方に共有するといった方法をとっています。場合によっては、校長先生を含めた会議を行うなど、生徒の実態に則した対応をとっているところです。また、直接対応している先生だけがその生徒に対応しているという形ではなくて、情報共有を行いながら進めている。っている。三高は昔から、どの先生に相談しても大丈夫といった対応をとっている。

【委員】インフルエンザなどの感染症対策について、校内での対策、人数が増えてきた際の対応はどのようなになっているのか。あるクラスで流行ったならば、そちら側に行かないでとか、親としては、もし罹患したらなど健康面での心配があるので、コロナを含めて生徒たちの指導してもらえたらと考えています。

(副校長) 検討したい。

【委員】地域の捉え方として、三高から見た地域と、周辺の方々から見る地域とでは異なるのかもしれない。住所が高松四丁目ではあるけど、実際は端の方で、三高は本当に四丁目なのっていう感覚の人もいる。どちらかというとな緑が丘とか高松二丁目の方が、学校周辺の地域になる。四丁目の町内の立場としては回覧板は嬉しいんですが、緑が丘とか高松二丁目の方々が、もしかしたら地域の学校だと思っているような気がする。

(副校長) 実際、悩ましいところ。周辺の回覧板だけで50数個となり、緑が丘も含めると400枚くらい用意しなければならないということですので、まずは、高松四丁目に回覧板を配ってみましょうというところから始めたもの。ただ、緑が丘小学校さんや黒石野中学校さんは、400枚をお配りなっているということはお聞きしましたので、今後、検討したい。

【委員】自分を含めて、周辺の方々は、自分たちの地域の学校の生徒っていうイメージは、多分四丁目だからとかじゃなくて、この学校を中心に周りの地区はみんな自分の地域の高校だと思ってると思います。なので、回覧板とかも配布していいと思うんですが、地域が大きすぎて駄目ですね。あんまりこだわらなくてもいいのかなとも思います。地域として、自分の家族が三高を出ていなくとも、地域の学校として応援してますので。重点目標の「地域への発信」について、60%を取ってますので、達成でいいと思う。

【委員】去年ですが、地域でやっているイベントに三高の生徒さんに手伝ってもらって大変助かった。このイベントを上田の方でやっている方がいて、何かできることがあればということで声をかけてもらっている。四丁目だけのエリアだけではなく、広く地域の学校だと思っている方がいる。そういった意味では、本当にすごくいい繋がりを持っていると思う。このエリアでは子供食堂などもやったりしている。前にお母さんと一緒に来られた生徒がいました。将来、学校の先生を目指してるということで手伝わせてほしいという申し出があり、そのとき子どもたちは三高のお姉さんというだけですごく子どもたちが反応していた。できれば、こんなことをやっているのも興味ある生徒さんの参加してもらえないかなど、また、発信していくような何かパイプというようなものがあればと考えている。

【委員】三高の教育目標にある「これからの時代のリーダーになる」とか、あるいは「社会の未来を創造する」ということを考えると、先ほど生徒さんに質問させていただいた「社会や人間の在り方について考える」が、授業を通してあるいはいろいろな活動を通して、考えていくことが子どもたちの人間性の育成にも繋がるし、引いては学力にも繋がっていくと感じている。今回のアンケート結果を見ても、非常にそれがいい具合に高まってきていると捉えている。生徒からの話でも、いろんな活動や取り組みの機会が自分に考えさせるきっかけを与えてくれたりと、すごく良い取り組みをしていただいているのかなというふうに捉えている。自由記述の中で一部の生徒なのだろうが、3年生で勉強だけではなくて地域課題について考える機会が欲しい。そういう自由記述が出てくることがまず素晴らしいと感じる。そういう意識を持って授業だとか、いろいろなことに取り組んでいることが素晴らしいと思う。あとは、委員がおっしゃったように、具体的にどういう機会があるのかっていうことを、地域課題について考えるといっても地域との接点がないと、何かについて考えるというときにたどり着かない。もちろん地域を広く捉えて、沿岸部への研修だとか、そういったこともまず地域課題ということの一つだと捉えますが、様々な活動機会を与えていただくことが考える、考えさせるきっかけになるのかなと思いますのでこれからも引き続きよろしくお願いします。

【委員】自分自身も世の中にどんな仕事があるということを全て把握しているわけではないのだが、仕事について知らない子どもたちもいると思うので、例えば、仕事をお持ちの方をお呼びしてお話を聞く

とか仕事を知る機会を設けてもらいたいと思う。また、情報リテラシーに係る指導はどのようになっているのか。

(情報処理課長) 4月の入学後すぐに情報関係ということで指導している。次年度も生徒指導と連携して実施する予定。

【司会】次年度に向けて何か要望等ありますか

【委員】今回もそうなんですが、生徒さんに参加いただき、アンケート結果だけではなく、どんなふうにかえているのか、三高で感じていることとかを機会となっていて、我々も参考になるし、また励みにもなっている。引き続き生徒の参加をお願いしたい。また、生徒の皆さんの取り組み成果の発表とか、もしかすると我々が聞いてもわからないくらい高度なことをやってるんじゃないのかなと思ったりもしますが、何かそういったことを紹介いただけると三高の様子がわかると思うのでよろしくお願ひしたい。

【司会】生徒の方から、最後何かありますか。一言、どうぞ。

《生徒1》来週、探究チームの一員としてとして福島県の相馬高校の方に行って、自分と1年生1名が交流会に参加する。その結果を「note」の方に掲載しますので、もしよかったら見ていただきたい。

《生徒2》要望になってしまいますけど、沿岸からこちら学校に来るには金銭面でも、成績の部分でもハードルが高い。だからこそ地域への情報発信のところで、三高は進学校で、沿岸から見ても気になる学校なので、盛岡だけではなく、県内へ情報発信をしてくれれば沿岸の生徒たちの進路の選択肢が大きく増えると思うので、そこをもっと増やしてほしいと思う。

《生徒3》中学生のときにも学校運営協議会へ、このような形で参加させていただいた。そのときは地域との繋がりをもっと強くするためにはということで参加させてもらった。今回、高校で改めて参加して、まず学校運営協議会に生徒が参加できるということにびっくりした。高校でもこういうことをするのはすごくいいと感じた。また、よろしくお願ひします。

(副校長) 次年度も引き続き、委員をお引き受けいただければと思います。次年度は、5月上旬とこの時期の年2回の開催となりますのでよろしくお願ひします。

以上で、第3回の学校運営協議会を終わります。